

# ランの香り フウラン

廣瀬清一 事務局

今年2月に東京ドームで開催された「世界らん展」は29回目を迎え、SNS隆盛の時代に合わせ「世界らん展-花と緑の祭典」と装を変え若い来場者が増え賑わった。

さて、フレグランス審査部門ではフウラン（風蘭）‘*Vanda falcata* 柚乃（ユノ）’が最優秀賞を獲得した。本来なら6-7月に開花する風蘭の優雅な香りをこの2月下旬のまだ寒い時期に、嗅げることはとても贅沢なことと思う。

風蘭は小ぶりの可憐な花から甘い芳香を放つ。夜になると香りがより一層広がる。

今回の風蘭は、柔らかなガーデニアの香りにミュゲ様の瑞々しさと柔らかな甘さが調和して上品に香り立っていた。馥郁として広がる香りは、心の疲れまでを癒してくれる感じがした。

洋蘭のオンシジウムには、チョコレートやバニラに似たお菓子のような甘い香りをもつものがあるが、それとは違った和の甘さである。デリケートなガーデニア様の甘さが優しく包み込んでいて、ほっとした感じがした。甘さがくどくなく、後味がよい和三盆のような上品な甘さを秘めた魅力的な香りだった。

香りは人によって好みが分かれるが、この香りは日本人に親しみやすい香りだと思う。

世界らん展では、風蘭はこれまでに7回入賞している。しかも‘紅天華’、‘猩々\*’、‘朱天王\*’、‘東出都\*’、‘金鏤閣\*’、‘柚乃\*’の6品は最優秀賞に輝いている。風蘭は、まさに香りの良い蘭の代表である。（\*印は富貴蘭）

風蘭は常緑多年性の植物で、関東南部から以西の本州、四国、九州、沖縄の低山地域の樹林の自生し、木に着生する。

昭和の中頃までは、樹林が生い茂った奈良の春日山など、各地の樹木に着生した風蘭がたくさん見られたという。

フレグランス部門

最優秀賞(2019年)



フウラン *Vanda falcata* ‘柚乃（ユノ）’（富貴蘭）

城市篤氏 撮影

ところで、風蘭は、「訓蒙図彙（1666年）」（中村惕斎）の中に、「風蘭は一名を桂蘭（香りの高い蘭）とも吊蘭（空中に吊って育てる）ともいふ」と、図と共に解説がある。

風蘭には、他に仙蘭（世俗を離れた）、不死草（不老不死の生命）、見風生（風のまにまに）、乾蘭（根が乾いても枯れない）などその特長を示した別名も多くある。

江戸時代は、鎖国政策のもと争いのない天下泰平の世が260年も続く。徳川家康から三代将軍の植物好きが発端となり、園芸趣味は大名、武士、庶民へと波及していく。この中で、日本の美意識に根ざした変り種を楽しむ特異な園芸文化が栄えた。

西国の大名などは参勤交代の道中、駕籠の中に風蘭を吊り姿や花の香りを楽しんだともいわれる。

江戸時代も中期になると、園芸は斑入りや変種の収集へと嗜好が移っていく。

江戸後期、十一代将軍徳川家斉公は、風蘭を愛好したといわれ、珍しい品種の収集に余念がなかった。全国の大名が競って領国内に自生する風蘭の中から変わったものを探し出して将軍に献上したといわれる。

これらの風蘭は高貴な鉢に植えられ、手を触れぬよう鉢の上に金網をかけ、さらに息がかからぬよう懐紙を口にくわえ鑑賞したと伝えられる。

このように大名や富豪といった富貴な人々に親しまれたことから、風蘭に「富貴蘭」の雅名が付くようになった。

江戸末期には、さらにブームが広がり一般庶民の間にも風蘭の愛好家が増えたようで、「風蘭見立鏡(1855年)」と題したいわゆる品種の番付表には、約百品種が記録されている。

江戸以降、何度か世の中が混乱した時期があったものの、昭和に入り「富貴蘭銘鑑」(大日本富貴蘭聯合)が作られ、これが受け継がれている。

日本富貴蘭会のパンフレットの表紙にある「富貴殿」は、二百数十種の富貴蘭を格付した最新版の「富貴蘭銘鑑」(日本富貴蘭会)の中で、依然と優秀品の最上位中央(大相撲の番付表という横綱)に置かれている。

富貴殿は、「富貴蘭を代表する品種で、幅広で絹地合の葉に天冴えの乳白大覆輪をまとい、緑地の上にくっすらと白い糊を引く。根色も美しく、優雅さ・丈夫さ・風格、全てを持ち合わせている」<sup>+</sup>とある。(天冴え=斑が初からはっきりとみえるもの、糊を引く=艶のない状態)

このように富貴蘭の特徴(葉の変化、付けの形、軸の色、根の色、花の変化)を表す独特の用語「芸」が60種以上もある。

富貴蘭は、以前に比べて手ごろな価格になってきている。忙しい現代において、江戸時代から続く古典園芸としての富貴蘭を趣味として楽しむのも粋ではないでしょうか。

参考文献：

『日本富貴蘭会 HP パンフレット』日本富貴蘭会

『富貴蘭との出逢い』吉川幸男 1991 自然と教育第3号

『名古屋園芸HP 花の博物館』

<http://nagoyaengei.co.jp/hakubutukan/hakubutu/bunka.htm>

『夜に香りを強める花』中村祥二 HP 版 VENUS 2014年夏号

『日本における伝統園芸植物の保存と継承の現状と課題』鈴木弘孝 城西国際大学紀要 19(7)、21-32、2011-03

『伝承と進化の美富貴蘭(別冊趣味の山野草)』<sup>+</sup> 梶の葉書房

『富貴蘭—230種の特徴と楽しみ方』堀内一博 三心堂出版社

(風蘭の学名は、*Neofinetia falcata* から *Vanda falcata* に変更されている。)



日本富貴蘭会 HP パンフレットより (部分)